

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38 48 49 55	コロナ禍の為、買い物や馴染の図書館などへ出かけられず、外出は散歩や庭先に出る程度になっている。ホーム内での活動としてレクリエーションを取り入れているが、それでも活動量は減り下肢筋力の低下につながっていると思われる。	過ごしやすい時期には積極的に散歩で外へ出る時間をつくり、季節を感じて頂けるよう支援する。また、外を歩く以外にも庭を活用し草むしりや草花の水やりを取り入れる。	散歩のチェック表を活用し、散歩や中庭へ出かける頻度が偏らないように記録に残す。それをもとに状態の変化がないか、ミーティングで話し合いをし考察する。	12ヶ月
2	12 13	組織としての職員の育成に課題があり、教育システムを見直す必要がある。日常の支援に問題があるわけではないが、認知症という病気の理解、認知症ケアに対する専門的な知識や技術が個々の職員の能力や経験値によって差異が生まれている。また、事業所の風土により生まれる問題に気づけていない可能性がある。	認知症ケアのみならず、接遇面を見直し、利用者様中心のケアの原点に立ち返り、尊厳ある生活を送って頂く。	より質の高いキャリアパスの確立を目指し、総ての職員に対し、評価できる書式を使い定期的に面談を行う。また、風土化しないよう毎月のミーティングで身体拘束や言葉遣いについて確認し続ける。	12ヶ月
3	35	コロナ禍での業務により、感染症対策は意識されているものの、火災などの災害の防災訓練が最低限の取り組みになってしまっている。	コロナ禍でもできる防災訓練の実施とともに、以前のように2ヶ月に1度の避難訓練、年に1回は消火訓練を実施する。	水害や火災についての図上訓練を行い、問題点の洗い出しを行う。またコロナ終結後には、他事業所を交えた訓練を行う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。